

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日 更新

事務事業名		コミュニティバス利便性向上推進協議会参画事業						☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり						所属部	政策部	課長名	澤田 勝矢
	施策	4	公共交通の充実						所属課	企画課	担当者名	吉田 健悟
	基本事業	12	公共交通の利便性の向上						所属班	政策企画班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款2	項1	目11	事業連番11627	法令根拠	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 道路運送法	☒ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		成果優先度評価結果	③
										コスト削減優先度評価結果	⑪	
終了、開始年度		☐ 26年度で終了 ☒ 26年度から開始						事業期間	(開始年度 ~ 年度) 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	パスロケーションシステムを導入し、バスの位置情報の把握及び利用者への情報提供(スマートフォン等による)を行い、レターバスの利便性向上を図る。なお、本事業は「広域連携プロジェクト(スクラムチャレンジ)推進事業」を活用することとしている。なお、導入後は問合対応、障害対応等の運用・保守に努める。
【業務の流れ】	パスロケーションシステムの導入に賛同する自治体で構成する協議会(または委員会)への参画。費用負担、開発・運営体制等についての検討・協議。システムの導入及び維持管理。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・合志市地域公共交通協議会委員より、レターバスの遅延対策(バスロケ導入及びダイヤ調整)について要望があっている。 ・利用者から「レターバスが来ない」との苦情があっている。 ・乗務員は、ダイヤ遅延による運転業務の負担が大きくなっている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO) 平成27年度本格運用後、バスロケーション利用促進の実施。またシステムの維持管理。		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 協議会への参画
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:会議回数	回	コミュニティバス利便性向上推進協議会負担金の減
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
市民	→ア:市の人口	人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
コミュニティバスを利用しやすくなる	→ア:市が委託しているバスや乗り合いタクシーのいずれかを利用したことがあると答えた市民の割合(市民アンケートより)	%
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	25年度実績(決算)	26年度目標(当初予算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	28年度予定	29年度見込	30年度見込
①活動指標	ア回			0	4	4	2	0	0	0
②対象指標	ア人			0	58,474	59,067	59,200	0	0	0
③成果指標	ア%			0	13.5	14.1	14	14.5	15	15.5
投資入費量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A)事業費計	一般財源	千円		1,647	800	564	449	449	449
		(A)事業費計	千円		0	1,647	800	564	449	449
		(A)のうち指定経費	千円		0	0	0	0	0	0
	人件費	(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人		0	3	3	0	0	0
		延べ業務時間	時間		0	300	210	300	0	0
人件費	(B)人件費計	千円		0	1,195	836	1,195	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円		0	2,842	1,636	1,759	449	449	449

事務事業名	コミュニティバス利便性向上推進協議会参画事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	------------------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度的事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 平成27年度バスロケーションの本格運用により、レターバス利用者の利便性の向上に繋がるよう努める。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 バスロケーションシステム運用・管理の徹底を行うと共に、レターバス利用者への周知啓発により、利便性の向上をさらに図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 協議会への参画事業であり、経費を負担する事業であるため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 協議会の経費に左右されるが、現状では協議会負担割合（1/2）により運営及び維持管理しているため削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在システムの運用・維持管理に係る事務のみであり最小限の人員である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全市民を対象としているため公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 協議会参画による負担金支払い及び、コミュニティバスの利便性向上推進を目的としているため、行政以外にはない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成26年度にレターバスへバスロケーションシステムを導入した。平成27年度からは本格運用となるため、利用定着のため、利用促進の取り組みを行い、利便性の向上を図っていくこととする。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐廃止

☐休止

☐目的再設定

☐事業統廃合・連携

☒事業のやり方改善（有効性改善）

☐事業のやり方改善（効率性改善）

☐事業のやり方改善（公平性改善）

☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策